

ロシアがウクライナを侵略して1か月以上たちました。前号にも書きましたが、第三次世界大戦や核戦争に発展しないことを切に願います。さて、前号でもお知らせしたように、当院に15年間勤務いただいた内科の良田内科部長が開業のため退職・後任に山田麻理奈消化器内科医師が4月1日から赴任となりました。良田医師からあいさつ文をいただきました。



“内科の良田裕平です。15年間お世話になりました。平成19年4月に小林真先生と一緒に赴任しました。消化器には宮島先生(当時副院長)と杉谷先生がいらっしゃいました。自然に肝臓系疾患は主に小林先生、宮島先生が診て、消化管、胆膵系、特にERCPなどが私の担当となりました。長岡の日赤に在籍していた時に関先生(現当院副院長)に教えていただいた早期胃癌のESD(胃粘膜下層剥離術)は県立新発田病院よりも早く当院に導入したことが小さな自慢です。物凄く高度の専門性は持っていませんが、消化器に限らず内科的な普通の疾患は普通に診療、対応出来るようにとやってきました。一時期は妻の千晶も当院で内科診療を担当させていただきました。2人の娘も当院で生まれ、出産にも立ち会えました。幸せな勤務医生活を送らせていただきました。これも宮島院長はじめ他科先生方、医療系、事務系など多岐にわたる職員の皆様の大変なご協力によるものと感謝いたします。ありがとうございました。中には未熟な私のいたらない診察診療、対応などで

不快な思いをされた方々もいると思います。いま振り返ると明らかに私の落ち度であったこともありました。これらの点は真摯に反省しております。これらの当院で経験したことは、すべて私の人生では忘れられない貴重で有意義な経験でした。4月からは秋葉区で先輩のクリニックを継承開業し、地域の医療、福祉に貢献するつもりです。最後にもう一度、豊栄病院の職員、患者の皆様へ感謝を申し上げます。ありがとうございました。”(左写真;良田医師を囲んで)

当院患者総合支援センター、在宅医療・介護連携ステーション北の岩淵MSWも3月いっぱい転勤することになりました。“4月の移動で13年間お世話になった豊栄病院そしてこの北区を離れることになりました。地域のみなさまには大変お世話になりました。わたしたち医療ソーシャルワーカーは「地域と繋がり、地域を繋げて」初めてよりよい支援ができると日々思っています。転勤は初めてではありませんが、こんなに地域と離れることが辛いことは初めてです。みなさん、本当に大変お世話になりました。この大変な状況はいつ終わるかわかりませんが、大変な時こそ病院と地域と一緒に乗り越えていくことが大切かと思えます。ありがとうございました。”



4月から豊栄病院では5名の新卒看護師が入職しました。みんな仲良く・楽しく働けるよう、病院として良い雰囲気作りをしたいと思っています。(上写真;昨年4月8日撮影)

発行責任者;豊栄病院病院長 宮島 透